

○ 昭和八年補助
イ 事業計画と実績

年次	計画	実績
昭和八年	176,659	156,415
昭和十年	105,548	115,748
昭和十二年	225,171	240,218
昭和十四年	255,185	210,561
昭和十六年	326,862	204,266
昭和十七年	350,000	214,052
昭和十八年	350,000	304,127

備考 (イ) 年次別計画目標額
(ロ) 各年十二月末日現在調査トス 但シ昭和十八年ハ以後繰上額トス

(イ) 第一期増産計画ハ昭和八年以降昭和十七年ヲ以テ一層終了シ昭和十八年以降ハ昭和十七年到達目標ヲ踏襲スルコトトセルモ作付面積ニ於テハ食糧増産ノ關係ヲ考慮シ昭和十七年當産年度ヲ維持スルニ止メ積極的拡張ヲ計ラザルモトス

口收支計算及補助内規

費目	昭和十七年度補助額	昭和十八年度補助額	摘要
道技師設置費補助	二六四〇〇	二一六〇〇	一人当二四〇〇円
道技手設置費補助	二四〇〇〇	二四〇〇〇	一人当一五九〇円
郡島技手設置費補助	一五八四〇〇	一五八四〇〇	一人当一五九〇円
郡島地方技手設置費補助	一三三〇〇〇	一三三〇〇〇	一人当一五九〇円
郡島棉花奨励費補助	六六七九二〇	六八四七五〇	一人当六四六五分
郡島農會技師員設置費	四七五〇〇	四七五〇〇	一人当三〇〇〇円
指導員設置費	一五八〇〇	一三二〇〇〇	一人当八〇〇円
金肥購入斡旋費	一三二〇〇〇	二四七五〇	一人当一五〇円
共同耕作團設置費	二一七二〇		
棉品評會費			

費目	昭和十七年度補助額	昭和十八年度補助額	摘要
地培管理奨励費	二五〇六二五	二五〇〇〇	一人当一〇〇円
優良種普及費補助	一七〇六二五	一七〇六二五	一人当一五〇円
採種圃設置費	八〇〇〇	八〇〇〇	一人当一〇〇円
一般普及費	八三四二〇	四一七二五〇	一人当一五〇円
病虫害防除費補助	五〇四二〇	四一七二五〇	一人当一五〇円
検測購入費	三三〇〇〇		
噴霧器購入費			
計	一三三〇六二五	一三三〇六二五	

備考 一補助額、各年度補助指令額トス

二補助額、豫算額ニ出シ昭和十七年度ハ止レ。五月、昭和十八年度ハ六八八二

五円ヲ失々減額セリ

三摘要、昭和十八年度補助額、算出基礎トス

四補助内規ハ別ニ定メルニ要ス、事項ハ補助条件ヲ附ス

○ 大森織造補助
事業計画書上費積

年次	水付海積	生産	水付海積	生産
昭和十六年			三、四一八〇	四、九八七五
昭和十七年			三、六六二五	五、〇三二五
昭和十八年	五、〇〇〇〇	五、〇〇〇〇	五、〇〇〇〇	五、〇〇〇〇

備考 (一) 年次別計画目標
(二) 各年十二月末日現在調査
昭和十七年八月付海積ニ於テ計画最終目標ニ對シテ對ニ分ヲ増加シタル
ニ生産高ハ早急ニ因リ最終目標ハ一割ニ相当セリ

ロ 收支計算及補助内規

費目	昭和十六年度補助額	昭和十七年度補助額	昭和十八年度補助額	摘要
道在勤装手設置費補助	一、五五〇〇	一、五五〇〇	一、五五〇〇	一人当一、五〇〇円
評選会等職員設置費補助	七、八〇〇	七、〇八〇〇	七、〇八〇〇	一人当一、八〇〇円
共同利用場施設費補助	二、五〇〇	二、六五五〇	一、四七五〇	一人当一、八〇〇円
優良種普及費補助	一、四〇〇	三、一六三	三、五七三	五分歩分
調査研究費	一、三三八	九一三	九一三	五分歩分
原種圃経営費	六、八五五	六、七五〇	六、七五〇	五分歩分
第一次採種圃設置費		三、〇〇〇	三、〇〇〇	五分歩分
第二次採種圃設置費		三、〇〇〇	三、〇〇〇	五分歩分
合計	一、二八〇四	一、四五〇一	四、四四九六	

備考 (一) 補助額ハ各年度補助指令額トス
(二) 補助額ハ豫算額ニ比シ昭和十六年度ハ同額昭和十七年度ハ八九五〇円増知
十八年度ハ二、〇〇〇円ヲ失々減額セリ
(三) 摘要ハ昭和十八年度補助額、算出基礎トス
(四) 補助内規ハ別ニ定メ必キ要、事項補助条件ヲ附ス

三 各種補助事業ノ實績

(ハ) 豚兔飼育獎勵補助

有畜農業ノ普及ト食肉・毛皮及皮革資源ノ涵養上
 豚及兔増殖獎勵ノ要アルヲ以テ昭和十四年度ヨリ夫々五ヶ年
 計画ヲ樹立シ豚ハ獎勵品種ヲ「パークシャー」種及其ノ雜種
 トシ飼養頭數ニ一〇萬頭、屠殺頭數一四〇萬頭、兔ハ獎
 勵品種ヲ日本白色種トシ飼養頭數一三〇萬頭、兔毛皮
 生産數一ニ〇萬枚ノ目標ヲ以テ増殖ヲ圖ラントセシ處單
 ノ要望モアリ昭和十六年ヨリ同二十年ニ至ル五箇年間ニ
 豚ハ飼養頭數ニ二〇萬頭、屠殺頭數一六〇萬頭ニ兔ハ
 飼養頭數ニ三〇萬頭、兔毛皮生産五百萬枚ニ夫々計
 画ヲ改訂實施中ニシテ昭和十八年度ニ於ケル補助實績

左ノ如シ

(1) 技術員設置補助

豚及兔増殖獎勵ノ實施ニ伴ヒ關係事務ノ增高ト種畜ノ
 生産配給及指導獎勵ニ當ラシムル為道及農事試驗場ニ技
 術員(道技手)各一名計二十六名ヲ設置スルトトシ一箇道
 一〇九ニ〇月宛計ニ四九六〇月ヲ補助セリ

(2) 講習會補助

兔ノ飼養管理及生産物ノ處理利用ニ萬全ヲ期スル為
 中央講習會ニ〇〇月地方講習會一三回各一〇〇月部落
 講習會一九三回各三〇月ヲ補助シ養兔講習會ヲ開催セ
 リ

(十) 甘藷普及増産奨励費補助 (除濟州島)

補助事業ノ実績

年次	作付面積		生産高	
	計	画	計	画
昭和十四年	三三,〇〇〇	三,一六四	七五,〇〇〇	八,三五六
十五年	四三,〇〇〇	三,四二九	一〇三,〇〇〇	一〇,三六九
十六年	五三,〇〇〇	五,〇三〇	一三〇,〇〇〇	一四,二四〇
十七年	六三,〇〇〇	五,三六二	一五〇,〇〇〇	一六,四九六
計	一九二,〇〇〇	一六,八八五	四二八,〇〇〇	四七,七五七

備考

昭和十七年度ニ於ケル作付面積及生産高計画ニ比シ著シク減少シタルハ稀有ノ早魃ニ遭遇シタル爲植付不能並ニ植付後枯死面積ヲ生ズルト共ニ植付遅延シ生育若ク阻害セラレタルニ因ル

(2) 収支計算及補助内規

補助項目	昭和十四年		昭和十五年		昭和十六年		昭和十七年		昭和十八年	
	計	画	計	画	計	画	計	画	計	画
種諸費補助	六〇,〇〇〇	六,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六,〇〇〇
苗床設置費補助	三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
傳習會費補助	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇
種諸貯藏費補助	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
専門職員費補助	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇
指導員手当補助	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇
計	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇

摘要

反斗六十畝宛
一〇,〇〇〇町歩分
坪当十二畝五厘宛
二〇〇〇〇坪分(反斗三十町歩分)
一十町歩八分
一畝及五畝宛
一〇,〇〇〇町歩分
群島農會後手一人当四〇〇町歩宛
一人五分(一人一分一〇町歩)
一人五分(一人一分一〇町歩)
四〇〇人分(一人四分四〇町歩)

備考 (1) 補助額ハ各年度補助指令額トス。

(三) 摘要 昭和三十八年度補助内詳表
 (三) 補助額ハ各年度豫算額ニ比シ昭和三十五年一〇、〇〇〇円、昭和三十七年
 八、〇〇〇円、昭和三十八年一、一、〇〇〇円内節減セリ。
 (四) 補助内規ハ別ニ定メズ必要ノ事項ハ補助條件ヲ附ス。

(十) 病蟲害駆除豫防費補助

區分	面積	國債對当額	調査額	備考	備考	備考
京畿	七二四	九八二	一〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	△減
忠南	五四七	七七八	七七〇	一	七七〇	
慶北	一〇〇	六二四	六三〇	八〇〇	△一七〇	
慶南	一一七	四四一	四八〇	三二〇	一六〇	
黄海	七六八	一、二四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一	
平北	七三五	四七三	四八〇	三〇〇	一八〇	
計	四八九一	四、三六〇	四、三六〇			

必需蔬菜ノ確保ニ関シ鋭意努力中ナルモ米ダ当業者ノ病蟲害ニ對スル知
 識乏シキ爲其ノ發生大ナル狀況ニ鑑ミセガ栽培指導面積四八九一町ノ生
 産組合ニ對シ濃厚ナル指導ヲ加フベク主要生産地タル京畿、忠南、慶北、
 慶南、黄海、平北各道ニ對シ國庫補助ヲ行ヒタリ

(3)

不ニ農村産業組合補助

不ニ農村産業組合、内地人移民三百二十名ニテ自作
 農創設、目的ヲ以テ昭和三年設立シ借入金三百二十萬
 圓ヲ以テ土地三百十萬坪、家屋三百五十棟ヲ五箇年積
 置ニ十四年年賦償還ニテ購買セルモ、イダク組合設立以
 來耕作地、塩害風害其他、災害ト數價セトシ禍サレ
 テ組合員ノ没定、年賦ヲ支拂フ能ハズ組合ノ經營困難ニ
 陥リタルヲ以テ本府、關係方面ト折衝シ組合債ノ利下
 反長期借付、利子ノ免除、不ニ興業會社社員担金、支
 出國庫補助等ノ方法ニ依リテ救正理計畫ヲ樹立セシメ
 和十一年度ヨリ之ガ貸付迄中、イダク其ノ成績漸次見好シ
 ヒツナリ

一毎年度年賦金シニ五、八八圓ハ左ノ方法ニ依リ償還
 ビシナル計畫トス

年別	組合支弁額	不ニ興業會社額	國庫補助額
第一 一年	七、四四〇	一〇、七五九	五、〇八七
第二 二年	八、四四〇	九、七二四	四、六八六
第三 三年	九、六四〇	八、五七八	四、二八九
第四 四年	一〇、八三八	七、七八〇	三、八九〇
第五 五年	一〇、九三三	六、九八二	三、四九三
第六 六年	一〇、九三三	六、一八三	三、〇九五
第七 七年	一〇、九三三	五、七八四	二、八八九

二年賦金、償還状況
 右救正理計畫額ハ以テ昭和十一年度ヨリ同十三年度ニ

至ル迄ハ組合ノ収支状況極メテ良好ニシテ毎年度ノ
 餘裕金ヲ以テ右年賦金償還ノ爲メタル特別積立ヲ
 爲シ來リタル處昭和十四年、大目子宮ニ依ル不作為爲
 組合員ヨリ豫定ノ年賦米ヲ徴收スル能ハズ依テ右積
 立金甲ヨリ一五、一三、一三圖ヲ引出シテ十四年度年賦金
 ノ償還ヲナシセリ而シテ十五年度以降ニ在リテハ作
 柄良好ニシテ組合ノ財政状態極メテ順調ヲ述リ國
 庫補助ヲ受ケルコトナリ自カニ依リ年賦金ノ償還ヲ
 爲シツツアリ

割當テ其ノ土地代金一六分利附一八五箇
 年振置ニ十年年賦ニテ償還セシムル第一
 種移民ト割當地ヲ十町以向トシ土地引渡
 ノ際代金ノ四分一ヲ拂込マシメ残金一七
 分利附一八二五箇年年賦償還ノ方途ニ依
 ル第一種移民ノ二種アリタルカ社有地ノ多
 クハ元米熟耕地ニシテ向地人移民ノ収得ハ
 漸次朝鮮人農家ヲ壓迫スルノ甚論擡頭スル
 ニ至リタルト且讓渡スベキ社有地僅少トナ
 リタルヲ以テ昭和二年以降ハ移民募集ノ事
 業ヲ廢止セリ
 不ニ農村産業組合ハ全羅北道沃津郡米田ニ
 在リ當初不ニ興業株式會社ニ於テ大正十一
 年于拓事業ヲ完成シタル苗千八百町歩ノ中

千町歩ニ向地人移民収得ノ計畫ヲ樹テ昭和
 三年迄ニ二百六十町歩ヲ収得シタルカ事業遂
 行ニ要スル低利資金借入レ業ノ關係上昭和
 三年三月移住者ヲ組合員トシテ不ニ農村産
 業組合ヲ組織シ本事業ヲ継承セシメタルニ
 ノナリ而シテ一戸當耕地ヲ三町歩トシ三白
 三十三戸一後割當地ノ都合ニ依リ三町歩
 二戸ニ變更セリ一ヨ収容スルニトシ土地
 及位宅代金ノ償還ハ五箇年振置ニ十四箇年
 年賦ト為セリ然ルニ災害救済安等ノ為組合
 員ハ豫定ノ年賦金ノ支拂ヲ為ス能ハズ組合
 ノ経理ハ頗ル困難ニ陥リタルヲ以テ本府ニ
 若シハ根本的救済策ヲ講ズルノ必要ヲ認め
 組合債ノ低利借替利子ノ切捨國庫補助不ニ

興業會社負担金支出筆、依り整理計畫、確
 立シ昭和十一年度ヨリ實施シタル結果漸ク
 好調ヲ呈スルニ至リ組合員ハ枚トシテ營農
 二精進シツツアリ昭和十七年度末現在三百
 十一戸存ス
 平康産業組合ハ江原道平康郡平康邑ニ在リ
 茨城縣友部國民高等學校加藤完治ノ薫陶ヲ
 受ケタル青年百名ヲ移住セシメテ以テ産
 業組合ヲ組織シ買収地一箇八十七町六反田
 三白三町五反林野百七町余一ヲ開墾シテ街
 田各二百五十町索ト爲シ一戸當街田各二町
 五反歩宛ヲ割當テ模範的自作農村ヲ建設セ
 シトセルモノニシテ土地建物代金ノ償還ハ
 四年年償還ニシテ一年年賦ト爲セリ而シテ

昭和六年年度末ニ豫定六割ノ収容ヲ完了セシ
 元事業予定ノ如ク進捗セザリシト突如穀價
 安等ノ爲組合員ハ予定ノ年賦金ヲ完全ニ支
 拂フ能ハズ組合ノ經理困難ニ陥リタルヲ以
 テ組合債ノ低利長期借替ニ依リ組合員ノ負
 担軽減ヲ図リ組合員亦銳意此ノ難局打開ニ
 精進シ營農ニ努メツツアリテ昭和十七年度
 末現在ノ組合員數ハ八十七戸ナリ
 尚以上ノ外忠清南道慶尚南道黃海道江原道
 等ニ於ケル田地人農場ニ田地人營農者ヲ收
 容セシモノアリ其ノ數僅カナリ

三、各種補助事業ノ實績、收支計算及補助内規
 (七) 水産組合補助

水産組合補助ハ水産會、漁業組合(漁業組合聯合會ヲ含ム)、及水産組合ニ對スル補助ニシテ

(1) 水産會ニ對シテハ大正十二年度以降毎年補助シ來リタルモノニシテ其ノ收支計算ハ左表ノ如ク尙水産會事業ノ實績狀況ニ付テハ別項「水産會總事業概要」ニ詳記セリ(補助規則等ノ定メナシ)

自大正十二年度 水産會補助計算表
 至昭和十七年度

補助額	區分年度		補助額	區分年度	
	各年	計		各年	計
30000	30000	30000	30000	30000	自大正十二年
30000	30000	30000	30000	30000	至昭和十二年
20000	20000	20000	20000	20000	昭和十三年
20000	20000	20000	20000	20000	昭和十四年
20000	20000	20000	20000	20000	昭和十五年
20000	20000	20000	20000	20000	昭和十六年
20000	20000	20000	20000	20000	昭和十七年
20000	20000	20000	20000	20000	計

(2) 漁業組合補助ノ状況左表ノ如ク大ニ尙之ガ詳細ハ別項「水産會總事業概要」ニ詳記セリ(別添「漁業組合補助規則参照」)

自大正十一年度 漁業組合補助計算表
 至昭和十七年度

補助額	區分年度		補助額	區分年度	
	各年	計		各年	計
24700	24700	24700	24700	24700	自大正十一年
26100	26100	26100	26100	26100	至昭和十一年
26100	26100	26100	26100	26100	昭和十二年
26100	26100	26100	26100	26100	昭和十三年
26100	26100	26100	26100	26100	昭和十四年
26100	26100	26100	26100	26100	昭和十五年
26100	26100	26100	26100	26100	昭和十六年
26100	26100	26100	26100	26100	昭和十七年
26100	26100	26100	26100	26100	計

計	七五七七一	七三三二五三
---	-------	--------

(5) 水産組合補助（第一區及第五區ノ各漁船底里漁業水産組合補助ニシテ補助規則ノ定メナシ）
 朝鮮ノ沿岸漁業ガ漸ク飽和状態ニ達シ沖合、遠洋ヘノ進出ニ迫ラレ其ノ用漁ヲ勤勞セルハ河川ニ違フルガ如クナルガ故ニ北道ニ於ケル第一區ヲ發給底里漁業者及全道北道以北平安北道ニ至ル六箇道ニ於ケル第六區ノ後發給漁業者ハ河川モ發給出漁ヲ目録ミ夫々發給底里漁業水産組合ヲ設立シタルニ依リ之ガ助成ノ爲第一區ハ昭和十年度ヨリ第六區ハ昭和十一年度ヨリ

夫々運轉燃料補助ヲ開始シタリ
 「註」昭和十五年發給底里漁業ノ漁業區域中第五區及第六區ヲ變更シテ第五區ト爲シ隨テ第六區水産組合ヲ第五區ト改稱シ組合ノ地區モ益爾以北西海岸ノ七箇道ノ區域ト爲ル

補助額	區分		補助額	區分	補助額	區分	補助額	區分	補助額	區分	補助額	計					
	昭和十年	同											昭和十一年	同	昭和十二年	同	昭和十三年
1,310			1,253		1,300		1,300		1,000		1,200		1,200		1,000		1,436
3,000			3,000		3,000		3,000		3,000		3,000		3,000		3,000		18,000

尙農村對策施設費中ニ包含セラレタル水産關係補助事業ニ付テ
 見ルニ
 (1) 漁業組合共同施設補助（別添朝鮮漁業組合補助規則參照）
 近年漁村ノ疲弊甚ダシク之ガ急遽ナル更生ヲ圖ル爲ニハ漁村ノ中心機關タル漁業組合ノ共同施設ヲ通シ漁民ノ共同利益ヲ

増進セシムルヲ最モ適切ト認メ昭和八年度ヨリ昭和十三年度迄漁業組合共同施設補助ヲ左ノ通實施セリ尙本補助ハ財政ノ都合ニ依リ昭和十三年度ヲ以テ一應打切りタリ

補助額	決算額	區分年度	
		昭和八年	同
40000	40000	同	九年
40000	40000	同	十年
40000	40000	同	十一年
40000	40000	同	十二年
39925	40000	同	十三年
26600	26600	計	

(2) 漁業組合職員設置補助(補助規則等ノ定メナシ)

漁村ノ振興ハ漁業組合ノ共同施設等ノ經濟施設ノミヲ以テシテハ到底其ノ徹底ヲ期シ得サルニ懸ミ更ニ進ンテ思想ノ善導、副業ノ奨励、個人經濟ノ更生指導等根本的施設ヲ必要トスルヲ以テ昭和十年度ヨリ十箇年ヲ期シ全漁家ヲ更生セシムルノ計畫ヲ樹立シ漁業組合ヲシテ之ガ指導ニ當ラシムルコト

ニ方針ノ決定ヲ見、既ニ實行ニ着手セルガ昭和十一年度ニ於テハ之ガ爲各漁業組合ニ專任指導職員一人宛ヲ増設セシメ其ノ所要經費一人當平均年六百圓ノ二割五分ヲ這費ヲ過ジテ補助シツツアリ其ノ實施状況左ノ如シ

被補助組合数	補助額	決算額	區分年度	
			昭和十一年	同
一八九組合	22625	22000	同	十二年
一七三組合	28375	28000	同	十三年
一九六組合	24800	24000	同	十四年
二〇〇組合	20000	20000	同	十五年
二〇〇組合	20000	20000	同	十六年
二〇〇組合	20000	20000	同	十七年
	107500	106000	計	

朝鮮漁業組合補助規則

大正二四ノニ七、總令七四

改正

大正一四年四月總令四八號

七月七號

昭和四年五月四日號 五月四日號 六年五月五號 八年

五月五號 一。年三月四號

朝鮮漁業組合補助規則左ノ通定ム

朝鮮漁業組合補助規則

第一條 漁業組合ニシテ組合員ノ漁獲物及其ノ製成品ノ本記販賣其

他其有シテ組合員ノ利益ヲ増進スベキ共同施設ヲ爲スモノ及漁業

組合聯合會ニ對シテハ本令ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ

補助金ヲ交付ス

第二條 補助金ノ交付ヲ受クベキ漁業組合ハ左ノ各號ニ該當スルモノヲ

ルコトヲ要ス

一 總合員數百人以上タルコト

ニ 總合員一年ノ漁獲高ニ萬円ニ達シヌハ達スル見込ナルコト

朝鮮總督特ニ必要ナルト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ補助金ヲ交

付スルコトナルベシ

第三條 組合員ノ漁獲物及其ノ製成品ノ本記販賣ヲ行フ漁業組合ニ對シテ

ハ理事者一人ノ給料豫算額ノ半額以内ノ補助金ヲ交付ス但シ其ノ

年度ノ本記販賣額が一萬円以上ニ達シヌハ達スル見込ナルモノニ限

前項ノ補助金ハ一組合ニ付五百四十円ヲ限度トス

第一項ノ補助金交付期間ハ一組合ニ付三年ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條ノニ 朝鮮漁業組合規則第十五條第三項ノ規定ニ依リ朝鮮總

督ノ指定スル漁業組合ニ對シテハ理事者見習タル職員一人ニ付給料等

額ノ金額ヲ補助スルコトヲ得但シ補助金ハ一人ニ付千円ヲ限度トス

第四條 前二條ノ規定スルモノノ外著シク組合員ノ利益ヲ増進スベキ共同施

設ヲ爲ス漁業組合ニ對シテハ其ノ施設費豫算年額ノ半額以

内ノ補助金ヲ交付ス

前項補助金ハ一組合ニ付二千円ヲ限度トス

第四條ノニ 漁業組合聯合會ニ付シテハ理事長及理事ノ給料豫算年額以内ノ補助金ヲ交付ス

前項ノ補助金ハ一聯合會ニ付五百円ヲ限度トス

第四條ノ三 漁業組合聯合會ノ施設ニ付シテハ其ノ施設費豫算年額ノ半額以内ノ補助金ヲ交付ス

前項ノ補助金ハ一聯合會ニ付五十円ヲ限度トス

第五條 漁業組合補助金ノ交付ヲ受ケルモノハ其ノ左ノ事項ヲ通知シテラ経テ毎年四月末日迄ニ朝鮮總督ニ申請スベシ

一 組合員數

二 組合員ノ漁業狀態

三 漁業資金ノ關係 最近三年間ニ於ケル組合員ノ漁業別及漁種別漁獲物數量價格並本年年度同見込額ヲ附記スベシ

76

三 事業計畫書及經費豫算書

四 第三條ノ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ最近三年度間ニ於ケル漁種別及漁獲物數量、價格及本年年度同見込額、漁獲物全部ヲ委託販賣ニ付スルコト能ハルトキ其ノ理由、第四條ノ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ施設ヲ必要トスル理由、設計ノ詳細及施設費内譯書

第五條ノニ 漁業組合聯合會補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ通知シテ経テ毎年四月末日迄ニ朝鮮總督ニ申請スベシ

一 第四條ノニ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ事業計畫書及經費予算書

二 第四條ノ三ノ補助金ノ交付ヲ申請スル場合ニ在リテハ事業計畫書、經費豫算書、施設ヲ必要トスル理由、設計ノ詳細及施設費内譯書

第六條 第四條ノ規定ニ依リ補助金ノ交付ノ指令ヲ受ケタル漁業組合及第四條ノ三ノ規定ニ依リ補助金ノ交付ノ指令ヲ受ケタル漁業組合聯合會施設事業ニ着手シタルトキ其ノ期日及完了豫定期日ヲ具シテ並通知書ヲ経テ朝鮮總督ニ届出ツベシ

鮮總督ニ届出ツベシ

前項ノ施設事業完了シタルトキ其ノ施設費ノ内譯ヲ明細ニ示ス決算書
及事業ノ経過ヨリシテ選定ナク通知事ヲ發シ朝鮮總督ニ届出カベシ
第七條 第三條、第四條、第五條ノニ又、第六條、三ノ規定ニ依リ補助ヲ受ケタル漁
業組合又ハ漁業組合聯合會ハ事業年度経過後選定ナク左ノ事項ヲ
詳述シ通知事ヲ發シ朝鮮總督ニ報告スベシ但シ事業計畫書ヲ調製
スル組合ニ在リテハ貸借対照表ヲ報告スルコトヲ要セズ

- 一 経費決算書
 - 二 財産目録及貸借対照表
 - 三 事業報告書及剰餘金處分書
 - 四 補助ヲ受ケタル施設事業ノ實施成績
- 第八條 左ノ各號ニ一ニ該當スル認可トキ朝鮮總督ハ補助金ヲ受ケルモノニ對
シ補助金ノ全部若ハ一部ノ交付ヲ停止若ハ廢止シ又ハ既ニ交付シタル補助金
77ノ全部若ハ一部ノ償還ヲ命ズルコトカレバシ
- 一 組合又ハ聯合會解散シタルトキ

- 二 組合又ハ聯合會ニ用エル法令ニ補助金交付ノ條件ニ違背シタルトキ
 - 三 組合又ハ聯合會事業ノ目的ヲ達スルコト能ハズルトキ
 - 四 補助金額決定ノ基礎ト爲サズル事項ニ著シキ異動を生ジタルトキ
- 附則
- 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

水産團體ノ事業概要

(一)

水産會

沿革

大正十二年四月一日朝鮮水産會令ノ施行セララルニ及ビ從來ノ朝鮮水産組合各道支部ヲ解散シテ道水産會ヲ設立シ同年五月ニハ右組合本部ヲ解散シテ朝鮮水産會ヲ設立シ今日ニ及ベリ

事業

朝鮮水産會竝ニ各道水産會ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ルコトヲ目的トスル公共團體ニシテ其ノ事業ハ時勢ノ要求ニ應ジ道水産會ニ在リテハ漁村ノ調査、水産ニ關スル講習講話、漁業者ニ對スル醫療施業、遭難救済、防疫等ニ關スル施設ヲ爲スノ外各種水産試驗事業、水産製品ノ検査、水産物販路調査、漁村ノ各種設備ニ對スル補助、漁船改良補助、漁具購入補助、水産製品改良獎勵、功勞者ノ表彰等ヲ爲シ、朝鮮水産會ニ在リテハ水産物ノ宣傳竝ニ販路擴

張、道水産會ニ對スル補助、機關新聞朝鮮水産時報(週刊)ノ發行、漁船ノ機關士養成講習會ノ開催、漁船改善施設事業其ノ他道水産會事業ノ統轄指導竝ニ獎勵ヲ爲シツツアリ而シテ各道水産會ノ財政ハ裕ナラザルヲ以テ之ニ多額ノ會費負擔ヲ強フベカラザル實情ニ在ルヲ以テ本府ハ朝鮮水産會ノ施設事業ノ性質上之ヲ助成スルノ必要アルニ鑑ミ毎年度國庫ヨリ經費補助ヲ爲シツツアリ尙半島漁業界多年ノ懸案ナリシ水産漁船ノ救済事業ヲ昭和十三年七月一日ヨリ朝鮮水産會及各道水産會共同ノ下ニ實施セシメタルガ本事業ハ漁船ノ使用者ヨリ極メテ低廉ナル保險料の賦金(道水産會ノ經費、漁船救済割)トシテ船價ニ對スル百分ノ一程度ヲ課徴)ヲ爲サシムルト共ニ國庫及各道(忠北ヲ除ク)ヨリモ毎年十五萬圓補助(年額各七萬五千圓トシ基金ノ利子收入年額十萬圓ニ達スル迄)十八箇年間ノ豫定ノ繼續補助)ヲ爲シ之ニ依リ漁業ガ不可抗力ニ因リ全損ト爲リタル場合ハ時價ニ對スル三分ノ二ノ